環境保健研究センターホームページの分野別アクセス数について（2004～2008 年）

Accesses of the Center's Homepages for the Past Five Years（2004～2008）

六車　満由美
Mayumi MUGURUMA

要　　旨

2004 年 1 月から 2008 年 12 月までの 5 年間について，当研究センターのホームページへのアクセス数を県の「県政 PR ボックス・インターネットによる広報」を利用して，分野別に集計した。年平均アクセス数は，5 万 3 千件，主なアクセス先は所報で全体の 7 割を占めていた。しかし，毎年，報文を新たに 30 編づつ公開しているにもかかわらず，アクセス数の増加には直結しておらず，閲覧者を増加させるにはサイト数を増やすこと，関連ホームページに相互リンクを貼るなどの方策が必要。一方で，情報を届ける対象者によっては，インターネット以外の媒体や内容を考慮しながら進める必要がある。

キーワード：HP アクセス数　広報手段　相互リンク

Ⅰはじめに

センターにおける広報活動は，ホームページ，環保研だより，環境学習サポートボックス活動等により実施し，県民等にセンターの業務内容や担っている役割等を伝えることを主としているが，まだ当センターの認知度は低い。地球温暖化等の地球規模での環境問題や新型インフルエンザ等の感染症が心配される中，研究機関として県民等に環境保全や公衆衛生の知識を分かり易く発信することが求められている。また，センターが身近な研究機関であることをアピールするために，施設見学をしていただくなどの，双方向の活動も不可欠である。

広くインターネットが普及した現在において，より多くの者に閲覧されれば，ホームページによる広報活動は低コストで容易に成果を得ることができる。

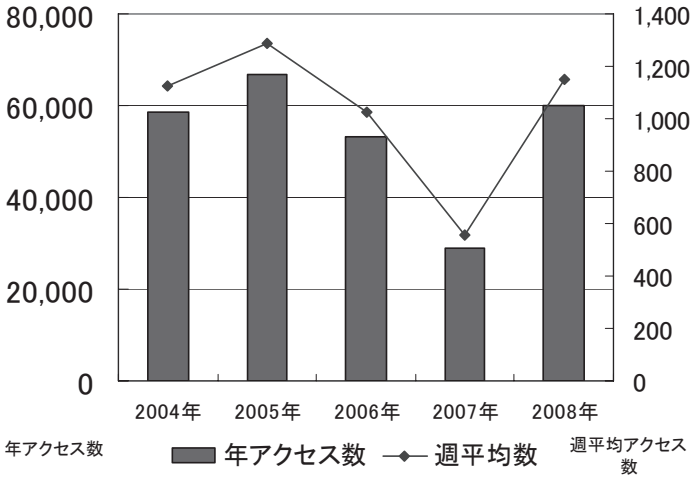


図１　過去 5 年間のアクセス数

県の各部局のホームページへのアクセス数は，「県政 PR ボックス・インターネットによる広報」に，２００４年１月から１週間単位でアドレス毎に集計され掲載されている。

当センターでは，ISO14001 の目標にもホームページによる広報をかかげ，アクセス数を集計することでチェックしているが，２００７年にアクセス数が目標値を下回ったことから（図１），その理由をさぐるため，掲示サイトの分野別，報文毎の閲覧状況を調査した。

これらの調査結果を各担当にフィードバックすることで効果的なページ作りの参考としていきたいと思料した。

Ⅱ方法

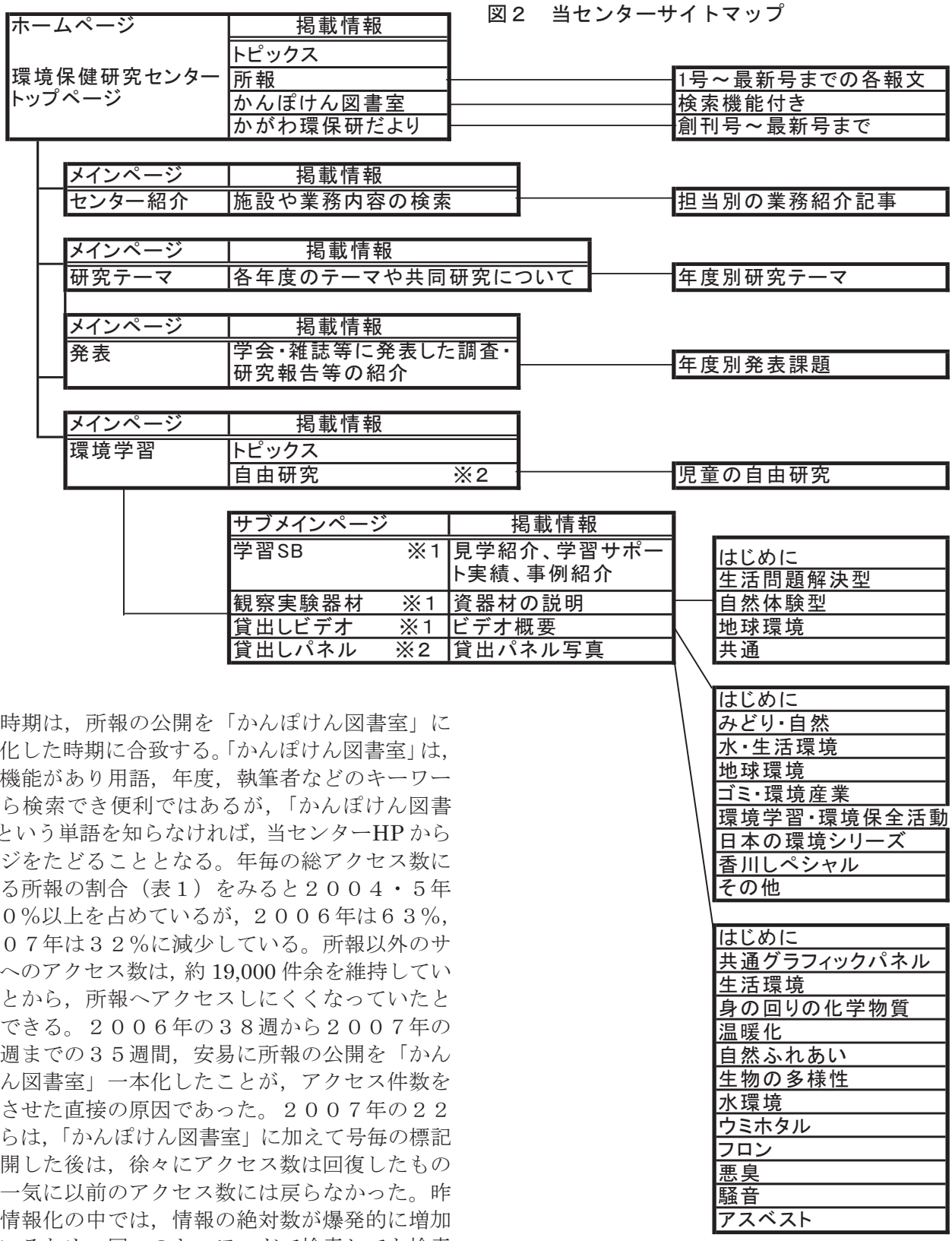
県政 PR ボックスの「インターネットアクセス数閲覧」より，２００４年１月から２００８年１２月までの 5 年間について，環保研のアドレス（kankyo e_center・・・）を抽出し，分野・報文・ページ毎のアクセス数を集計した。

Ⅲ結果

当センターのホームページの構成は，（図２）のとおりで，サブメインページ※１は２００７年に，※２は２００８年に増設したコーナーである。

５年間の集計結果によると（図３）２００６年の後半から，１週間当たり 1,000～1,900 件あったアクセス数が 200～700 件へと減少していた。

図２　当センターサイトマップ



この時期は，所報の公開を「かんぽけん図書室」に抱合化した時期に合致する。「かんぽけん図書室」は，検索機能があり用語，年度，執筆者などのキーワードから検索でき便利ではあるが，「かんぽけん図書室」という単語を知らなければ，当センターHPからページをたどることとなる。年毎の総アクセス数に占める所報の割合（表１）をみると２００４・５年は７０％以上を占めているが，２００６年は６３％，２００７年は３２％に減少している。所報以外のサイトへのアクセス数は，約19,000件余を維持していることから，所報へアクセスしにくくなっていたと想像できる。２００６年の３８週から２００７年の２１週までの３５週間，安易に所報の公開を「かんぽけん図書室」一本化したことが，アクセス件数を減少させた直接の原因であった。２００７年の２２週からは，「かんぽけん図書室」に加えて号毎の標記を再開した後は，徐々にアクセス数は回復したものの，一気に以前のアクセス数には戻らなかった。昨今の情報化の中では，情報の絶対数が爆発的に増加しているため，同一のキーワードで検索しても検索順位が上位でなければチェック対象から外される結果になりせっかくの研究成果が陽の目をみないこともある。

表１　年別の総アクセス数と所報アクセス

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
総アクセス数	58,485	66,900	53,153	28,842	59,929
所報へのアクセス数	43,446	50,174	33,271	9,234	40,433
（%）	(74)	(75)	(63)	(32)	(67)
その他へのアクセス数	15,039	16,726	19,882	19,608	19,496

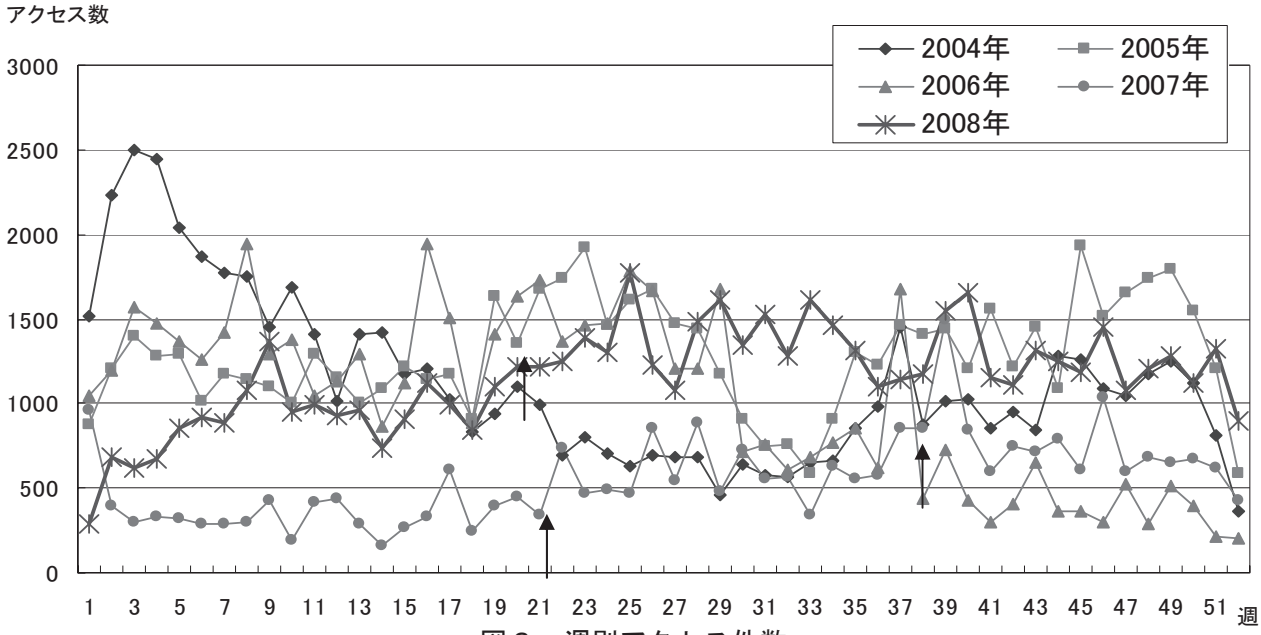


図３　週別アクセス件数

所報は年に一度，印刷製本し関係機関に発送するとともに，インターネット上に公開している。各担当ごとの発表数とアクセス数は（表２・表３）のとおりである。号を重ね，ネット上に公開している報文累積数は増加しているが，アクセス数には反映されていない。これは，所報のような専門性の高いものにアクセスするのは，同業の研究員等が主で，絶対数が限られているのでないかと思われる。アクセス数の多かった報文には，4,806 件／年のアクセスがあったが，今回の調査の過程で，所報に掲載されているのにWeb 上への公開漏れの報文が８報みつかった。

次に，所報以外のアドレスへの閲覧状況を（表４）に示す。出前講座のイメージを捉えやすくなるように，２００６年から他校で実施した学習事例，観察・実験器材，貸出用ビデオなどを写真入りで掲載するコーナーを，増設した結果，環境学習事業の申込件数が，平成１９年度５２件から平成２０年度は６７件に増加し効果を上げた。また２００８年からは貸出用のパネル写真を掲載し利用者への便宜を図った。

表２　所報への掲載報文数

担当	1号	2号	3号	4号	5号	6号
水質	5	3	8	7	6	7
大気・常時監視	7	6	7	6	7	2
廃棄物リサイクル	2	3	3	7	4	4
生活科学	2	5	2	4	3	3
微生物	10	10	5	4	2	3
臨床科学	2	2	3	3	2	1
企画情報	1	1	0	1	1	1
総数	29	30	28	32	25	21

表３　各担当別アクセス数

担当	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
水質	11,325	14,439	10,868	2,443	11,087
大気・常時監視	3,842	5,521	3,442	1,187	4,048
廃棄物リサイクル	6,492	8,281	5,124	2,174	10,757
生活科学	12,036	10,220	5,893	1,769	7,296
微生物	5,009	6,557	4,048	998	3,335
臨床科学	4,409	4,858	3,653	590	3,699
企画情報	333	298	243	73	211

表４　所報以外へのアクセス数

		2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
センタートップページ		7,820	8,272	4,613	4,485	4,374
センターについて　紹介文		1,177	1,222	3,584	4,523	3,220
研究テーマ		1,031	882	1,310	1,285	1,017
発表		528	459	1,068	1,225	1,002
環境学習トップページ		591	510	608	637	825
	学習サポートボックス	―	―	310	450	892
	観察・実験器材の一覧	―	―	977	1,072	632
	貸出用ビデオの一覧	―	―	2,064	1,830	1,157
	貸出用パネルの一覧	―	―	―	―	1,069
自由研究		―	―	―	―	1,221
環保研だより		2,069	1,844	3,218	2,485	2,268
その他（トピックス、申請書ほか）		1,823	3,537	2,130	1,616	1,819

加えて，環境学習トップページに「自由研究―みんなの広場―」を新設し，貸出用資器材を利用して夏休みの自由研究を行った児童に発表の場を提供した結果，アクセス数も増え，児童の励みにもなっている。木太北部小学校 4 年児童の「実はかなり汚れている家庭の水」は，高松市の社会科副読本に取り上げられ環境教育に活用されている。

Ⅳ　まとめ

HP を公開する側からみると，こちらの発信情報を各種検索サイトを通じて検索してもらう立場にあるため報文タイトルのつけ方に一般的で平易な用語を使い，専門分野についてもオーソライズされた用語を選択するなどの検索されやすい工夫が必要である。

また，関連ホームページに多くの相互リンクを貼り，環保研のトップページをより多くの人の目に触れるようにしないとアクセス総数の増加は見込めないことが窺える。さらに同一情報であっても複数の進入窓口から閲覧できるほうがアクセスを期待できる。

平成２０年度の総務省の通信利用動向調査によるインターネット等の利用者は，人口普及率７５．３％，人口にして９，０９１万人となっている。その中でも６５才以上の高齢者の利用率は著しく低く，インターネットの情報を得にくい状況にある。広報を考えるときは，情報の内容，対象者によっては，広報の手段を考慮する必要がある。たとえば高齢者対象の生きがい大学等のセミナーや，幼児保護者会などの場での，時期にあったテーマを企画していきたい。